



# 雁の巣歴史探訪

2022年9月撮影



福岡第一飛行場建設の石碑

**海の中道 由緒も深き 雁ノ巣松**

白砂青松ノ丘 博多湾ニ面シタル雁ノ古里ヲ選ヒ  
水陸兼用ノ国際飛行場ヲ建設ス  
昭和十年一月起工シ 翌十一年五月竣工ス  
場内面積十八萬余坪  
昭和十一年六月 福岡飛行場建設事務所

球磨号遭難慰霊碑

昭和14(1939)年5月17日、ソウル経由北京に向かう大日本航空のロッキード双発プロペラ機(球磨号)が離陸に失敗する事故がありました、この事故による6名の犠牲者を追悼する慰霊碑です。

雁ノ巣海岸からは立花山山塊を背景に和白干潟が昔と変わらぬ風景を見せてくれます。一方、アーチ橋の「海の中道大橋」がかかるアイランドシティーは未来都市への開発が着々と進んでいます。

むかし「福岡第一飛行場」の名称で、国内最大規模の民間国際空港が、昭和11(1936)年に和白村雁の巣に開港しました。東南アジアへの路線が運航され発展を期待された空港でありましたが、戦時中は軍用に、戦後は米軍に接收され「ブレディ飛行場」の名称で基地として使用されました。その後、昭和52(1977)年に全面返還され、現在は雁の巣レクリエーションセンターとして市民に親しまれています。

過去の飛行場の痕跡を残す物はほとんど無くなりましたが、建設の碑や水上飛行機の滑走台、滑走路の跡などを見ることができます。



滑走路の痕跡

米軍が滑走路に敷き詰めた穴あき鉄板の跡を一部露出したコンクリート上で確認することができます。



飛行機スベリ跡

「スベリ」と呼ばれた水上飛行機用の滑走台跡が残っています。



旧線路跡

昭和14(1939)年の飛行場拡張工事に伴い、線路を北側に移動しました。跡地は住宅地になりましたが旧正門へ続く770mのまっすぐな道路に線路の面影を見ることができます。



雁の巣鼻(砂嘴)

海の中道大橋付近に砂嘴が形成されています。湾内で手つかずの自然が残った唯一の場所ではないかと思われます。